

穴生学舎のボランティア活動紹介

芸能グループ「オーロラ」

ワッ!しいちゃん濃いよ!目を配っていた小三の孫が思わず声を上げた。半分に破ったティッシュを手でもんでいるうちに千円札に変わったからです。ドヤ顔のしいちゃんの顔が見えてきそう。これは会員Aさんが話してくれたエピソードです。以前は何事にも消極的で不器用だと決め込んでいたAさんですが、可愛い孫と楽しくコミュニケーションが出来る様になったのです。

我がグループは、夢を求めて「げけない、モテる、若返る」をモットーに芸能活動を楽しむ集団です。血回し、南京玉すだれ、マジック、バナナの叩き売りなどを中心に施設訪問や地域のイベント等で活躍し、常日頃より、芸のスキルアップに余念のないグループです。

ワイワイ、ガヤガヤと笑いの絶えない仲間達ばかりです。仲間入りして、一緒に楽しい人生を謳歌してみませんか?

初心者大歓迎です。優しく、解り易く指導します。(毎月第一、第三の月曜日グループと金曜日グループがあります。)



〈大学祭でバナナの叩き売り〉

C.L.V(コミュニティー・リーダー・ボランティア)

平成21年に発足した私達グループは、学舎のコース「地域リーダー養成」を学びました。学舎で勉強した知識を少しでも地域に還元すべく、このグループを発足致しました。

主な活動は障害者の皆様を応援する「ワン・コイン・コンサート」、北九州市が主催する「車椅子バスケットボール大会」、JICA研修員との国際交流活動などです。特に国際交流活動では、研修員の親達の年代と私達の年代がほぼ同じ世代なので、研修員達は私達とのふれ合いを非常に喜んでくれます。

日本の年長者との交流で自国の年長者との比較等ができ、とても貴重な体験をしたとの感想をもらいます。

黒崎に流れている埴川の清掃活動にも参加しています。清流の流れる埴川で来年の夏には「螢」の乱舞を見る事ができると思っています。



〈JICA研修員との交流〉

風船バレーボール普及ボランティア「やまびこの会」

平成10年(1998年)穴生学舎の研修修了生の有志で北九州市発祥といわれる風船バレーの普及を目的に結成され、今日に至っています。風船バレーボールは障害の有無に関わらず子供から高齢者まで一緒にプレーが出来るスポーツです。

会員は62名・平均年齢72歳です。ドームで月2回、フレッシュラザで毎週1回楽しく運動し審判等の研修も行っています。月1回16校の小学校の特別支援学級児童との交流会の実施、毎週1回市民センターや体育館でのクラブ指導参加をしています。

年間行事の市民センタークラブ対抗大会、ドームでの北九州大会の開催と北九州市小学生大会、特別支援学級スポーツ大会にスタッフとして活動しています。

6人制のこのスポーツはチームワークが大切で、全員が一度は風船に触ってから相手のコートに返すというルールです。思いやりが必要でチーム全員の和が深まり、一緒に楽しめます。風船バレー大会に参加したり、懇親会、旅行など実施したりと、人との輪が広がっています。



〈普及活動〉

健福会

平成16年4月に発足しました私達の健福会は、穴生学舎研修コースの「健康と福祉」を2年間学びました。発足当時の平均年齢は60代前半で、会員数も30数名おりましたが、現在では10数名でほとんどの方が後期高齢者です。主な活動は月に2回(第一、第三水曜日)穴生学舎及び穴生ドーム周辺の美化運動として、清掃と歩道の点検を行っています。

また、ブルタブを回収し、車椅子を福祉施設に贈呈しています。多数の方々のご協力により、昨年12月には7台目を贈呈いたしました。皆様方に深く感謝いたしますとともに、今後ともよろしく願い致します。

その他、年2回の社会見学や、体力づくりとして、たまにグラウンドゴルフ等も行っています。会員は随時募集していますので、興味のある方は是非入会して下さい。お待ちしております。



〈車いすを寄付〉

穴生「21」の会

平成18年の退職を機に、社会活動を考え、穴生学舎を訪れたのが、ボランティアの始まりです。穴生学舎から「穴生21の会」を紹介され、入会しました。

現在メンバーは11名、班を編成し、毎週月曜日に介護施設で介護活動を行っています。顔を見せると皆さんから喜んで頂き、帰るときは「次週月曜日迄、元気だね」と、お別れします。同年代が話し相手というのも良い様です。介助活動だけでなく、日本舞踊や、マジックの慰問、布ぞうり作りの指導など、メンバーの特技を生かして活動をしています。

また、自分たちも健康で楽しい活動が出来る事を願い、動物園の桜の下で総会をしたり、年一回の旅行で親睦を深めたりと、楽しく活動をしています。



〈介護施設を慰問〉

◆◆新聞編集委員会◆◆

- 編集委員長：貴千壽彦(地域ふれあい)
- 副編集委員長：松尾温(アジアを学ぶ)
- 副編集委員長：水之光江義(健康スポーツ)
- 上野三津子(心と身体の健康)
- 藤野軍治(文化伝承) ●早川利幸(歴史に学ぶ)
- 塚本修一・荊尾治邦(写真入門)
- 疋田紘紀(健康づくりサポーター)
- 井上孝子・原川洋子(実用書道)
- 小林正己(国際情報) ●追立康則(絵画入門)
- 豊島智恵子・水江トミエ(健康管理)
- 石田正一(英会話) ●安増奈己江(生活情報)
- 太田潔(郷土のなりたち)

穴生学舎

発行 北九州市立年長者研修大学校
穴生学舎新聞編集委員会
北九州市八幡西区鉄竜一丁目5番1号
TEL: 093-645-6688
FAX: 093-645-6661
http://kitakyu-nenchodai.com

題字 師村 華香

特集

戦後70年 軍艦防波堤を知っていますか?



目次

特集：戦後70年	2～3面
穴生学舎の三大大事	4～5面
文芸欄	6～7面
穴生学舎のボランティア活動	8面

タイトル：黒崎副都心の再生
写真提供：塚本修一(写真入門コース)

特集 戦後70年 軍艦防波堤を知っていますか?



洞海湾をはさんで新日鐵住金の戸畑地区工場と向かい合う若松区響町の海岸に、高さ1.1mばかりの船の形をした奇妙なでっぱりがある。これは、旧日本海軍の駆逐艦を沈めて築いた防波堤の名残。築堤工事はいつ、どのように進められ、何が駆逐艦を今のような姿に変えたのか、我が国の戦後70年と重なるその数奇な運命を辿ることで、軍艦防波堤の歩みを振り返ってみた。

写真は駆逐艦「柳」の現在の姿

20世紀前半は戦争の時代

20世紀の前半は、戦争の時代であった。まず、1904年に日露戦争。続いて1937年から日中戦争。そして1941年12月8日、日本軍のマレー半島上陸やハワイ真珠湾攻撃によって、米国を盟主とする連合国軍との太平洋戦争に突入した。戦争初期は連戦連勝。しかし、翌1942年4月18日、航空母艦「ホーネット」から飛び立った16機のB-25中型爆撃機が東京・川崎・名古屋・四日市・神戸などを空襲。これを皮切りに連合国軍が反攻に転じ、ミッドウェー・ガダルカナル・サイパン・硫黄島などで日本軍は致命的な打撃を受けた。さらに1944年からは、マリアナ諸



「8・8大空襲」で焼野が原になった前田地区（八幡東区）左上に城山が見える

姿を見せている「柳」

「軍艦防波堤」としてその姿を見せている船は、駆逐艦「柳」と言い、第一次世界大戦中の大正6年に佐世保海軍工廠で竣工、地中海に派遣され同盟国の輸送船の護衛や被災した船の乗組員の救助等を行った。昭和15年に除籍後練習船として活用された。昭和23年9月上旬構造物を撤去し、船体に砂を詰め若松の響灘防波堤として使用された。告示名は「響灘沈艦護岸」。

戦後、大半の軍用艦艇は解体されたり戦勝国に接収されたりしたが、老朽艦や破損した艦は防波堤として港湾整備に使用された。しかし、今日までの歳月に鋼鉄の船体は徐々に朽ち果てたり港湾の改修等で撤去、埋没させられたりしてその大半が姿を消しているのは、恐らく「柳」だけではないかと思われる。

「柳」と共に若松で防波堤として使用された艦艇は、実はあと2隻ある。太平洋戦争で活躍した駆逐艦「涼月」と、同「冬月」である。昭和36年9月の台風で三艦とも多量の中詰土砂が流出し、船体も大きく破損したため、その機に護岸の復旧工事を実施、各船内にコンクリートを充填、舷側の補強も行った。その後昭和43年に港湾改修工事のため、「涼月」「冬月」の2艦はコンクリートで覆われ、岸壁となってその姿は完全に消滅してしまっ



埋没状況図



現役当時の「柳」

沈んだと思われた「涼月」

「涼月」は、昭和17年に「秋月」型3番艦として三菱重工長崎造船所で竣工。輸送船や特務艦の護衛にあたったが、昭和19年1月敵潜水艦の魚雷で前部と後部を大破、危うく沈没を免れ呉海軍工廠で修理し現役に復帰。ところが同年10月再び魚雷を受け前部を大破。再度ドック入りをし、その後は瀬戸内海で訓練を行っていたが、昭和20年4月、戦艦「大和」の沖縄特攻作戦に「大和」の護衛として参加。奮戦中、雷撃機の150キロ爆弾が2番砲塔と艦橋の間に命中大破し、戦線から離脱。他の艦は「涼月」は沈没したと思っていたが、後進で相当遅れて佐世保に帰投した。その時佐世保海軍工廠はサイレンを鳴らして歓迎した。

再び応急修理を行い、予備艦として終戦



駆逐艦「涼月」の雄姿



響灘に設置当時の三艦の写真。手前から柳、涼月、冬月。堤防の先端に立つのが灯台で、その先が響灘



破損前の「柳」

を迎え、昭和23年上部構造物を撤去した後、船体のみ若松で防波堤となった。

関門港で触雷した「冬月」

「冬月」は、「秋月」型8番艦として昭和19年に舞鶴海軍工廠で竣工。同年10月、作戦行動中に速州灘で魚雷を受け艦首を破損、呉海軍工廠で修理し、マニラ方面にて空母護衛の任につき、帰投後瀬戸内海で訓練を行う。

昭和20年4月、沖縄特攻作戦に参加、「大和」沈没後、諸艦の生存者を救出して佐世保に帰投。終戦後、関門港で機雷に触れ航行不能となる。昭和23年「涼月」同様、上部構造物を撤去した後、船体のみ若松で防波堤となった。



駆逐艦「冬月」の雄姿

軍艦防波堤 知恵袋

「柳」の設計図を発見

2013年、「柳」の設計図が「軍艦防波堤連絡会」代表の松尾敏史氏によって発見された。終戦時の焼却処分を免れて艦艇の設計図が出てくるのは極めて珍しく、翌年若松区の旧古河鋳業若松ビルで開催された「軍艦防波堤を語る会」で披露された。現在コピーが同ビルに保管されており、今後も年に1度「語る会」で披露される予定。

軍艦防波堤を語る会

毎年4月の原則第1日曜日に、若松区の旧古河鋳業若松ビルで、沖縄特攻作戦に出撃した元乗組員やその遺族を囲んで、特攻作戦の生々しい話などを聞く会として開催されている。

高塔山の三艦慰霊碑

三艦の武勲を偲び霊を慰めるため、昭和51年に旧海軍出身者で作る「若松海友会」が、若松区高塔山の忠霊塔のそばに三艦慰霊碑を建てた。昭和63年には「柳」の姿を少しでも残そうと「双保柱」を慰霊碑の傍らに設置した。

「軍艦」というのは

「軍艦」と言うのは、戦艦、航空母艦、巡洋艦等、艦首に菊の紋章をつけている艦艇を言い、駆逐艦は本来「軍艦」とは言わない。ちなみに、昭和28年度の「若松市市政概要」の若松市案内図には、「駆逐艦防波堤」と記されている。それがいつしか「軍艦防波堤」と呼ばれるようになったようだ。

「軍艦防波堤」へのアクセス



若松北部の国道495号線から響町方面に曲がり、通称「青橋」を渡り、次の角を「エコタウン」方面に1キロ程進む。「響灘埠頭0・1号岸壁」の標識があるので、その示すとおりに進むと突き当りの右側にある。

2015年

穴生学舎三大行事特集



第22回 ふれあいスポーツ大会 6月13日(土)

無事故で怪我人も無く終え、全参加者に感謝



萬徳 学実行委員長コメント

今年、初めて学舎に通い、伝統の有る、ふれあいスポーツ大会実行委員長の座に任命されました。何も分らない私が、この大役を務める事が出来たのは、学舎の先輩、指導員、ボランティアや同好会の方々の協力があったからこそだと思います。心より御礼申し上げます。

競技の中で印象的だったのは、紅白の応援戦でした。大会当日迄、練習に励み、子供さんや、地域の人との繋がりがふれあいを大切に、大盛況で終えた姿は今でも鮮明に思い出されます。また本大会を通じて研修生同士の繋がりも、より一層深くなった事と思います。

最後になりますが、今後も様々な行事を通じて、コースの垣根を超え、更なる連携を強めていければと思います。



第21回 大学祭&ドームフェスタ 10月17日(土)~10月18日(日)

各コースの授業内容をわかりやすく展示、来場者から大好評！ステージ、バザー、喫茶、屋台、ニュースポーツ体験等2日間で7500人来場



藤田 光信 実行委員長コメント

好天のもと、大学祭を成功裡に終えることができたことを関係者の皆様に深く感謝します。学舎スタッフ、各コースの実行委員の方、御苦労様でした。各コースでのホームルームでは、催事、学習成果発表の企画・立案等の議論は白熱したことでしょう。催事、発表内容が決定し、中心となって実務を担った方々には重ねて御礼申し上げます。クラス全員が役割を持って準備を行うことでクラスが結束していったのではないのでしょうか。さて、今後の課題とし多くのご意見を頂きました。学舎スタッフの方、ご検討をよろしくお願いいたします。最後に大学祭&ドームフェスタがお盆や正月に並ぶ家族(孫)の帰省理由になれば嬉しい限りです。



修学旅行

●1便 11月17日~18日 (87人参加) ●2便 11月19日~20日 (116人参加) ●3便 11月24日~25日 (95人参加)

やっぱり宴会は素晴らしかった!

- 1日目 穴生学舎 ~ 宇部蒲鉾見学 ~ 長州苑(昼食) ~ 瑠璃光寺 ~ 秋吉台 ~ 角島大橋 ~ ホテル西長門リゾート
- 2日目 花燃ゆ大河ドラマ館 ~ 松陰神社・松下村塾 ~ 津和野(昼食) ~ 徳佐りんご狩り ~ 穴生学舎

田中 啓八郎 実行委員長コメント

Q 今年の修学旅行はいかがでしたか

A 今年の修学旅行は雨に降られた便もありましたが、バスの車内や夜の宴会さらに二次会で大いに盛り上がり、同じ世代の方達が楽しい時を過ごされたようで実り多い旅であったと思います。

Q 中でも印象に残ったことは

A 幕末より明治期の日本を主導した先人達を輩出した松陰神社・松下村塾の当時を偲び、その素晴らしさに感動しました。

Q 実行委員長をやってみて、いかがでしたか

A 日程や行き先に制約がある中で、思い出に残る旅行にしたいという目標に少しでも近づけるよう検討いただいた実行委員の方や指導員に感謝しております。



新聞編集委員コメント

今回、修学旅行に携わって下さった多くの皆様、ありがとうございました。2日間共雨だった便もありますが、宴会では皆様普段以上のパワーを発揮し、大笑いし、二次会も大変盛り上がったのではないのでしょうか。思い出もまた一つ増えた事でしょう。そして、仲間との絆も高まったのではないのでしょうか。来年は、色々な意見、要望などを検討し、研修生全員が参加出来る事を目標にしたいものです。

平成28年度 研修生募集

北九州市内の60歳以上(28年4月1日現在)の方ならどなたでも大歓迎!

【一般コース】

- ◆心と身体の健康
- ◆歴史に学ぶ
- ◆アジアを学ぶ
- ◆健康管理
- ◆生活情報
- ◆郷土のなりたち
- ◆文化伝承
- ◆健康づくりサポーター
- ◆国際情報
- ◆地域ふれあい
- ◆健康スポーツ

【実技コース】

- ◆写真入門 (デジタルカメラ)
- ◆実用書道
- ◆英会話
- ◆絵画入門

申込受付期間

平成28年2月1日~2月19日

入案内は、市内各区役所、出張所、市民センター、穴生学舎などに置いています。

詳しいお問合せは 穴生学舎(☎093-645-6688)まで

ボランティア募集

皆さんの社会参加を応援します!

穴生学舎のボランティアは24グループあります。穴生学舎で学び、それが契機となって発展しました。スポーツ、ハンドベル、マジック、コーラス、読み語り、朗読等々、多彩な活動があります。皆さんの元気を地域に届けませんか。 ※8ページにグループのいくつかを紹介しています。

詳しいお問合せは 地域活動情報支援センター ☎093-645-6696 [穴生学舎事務室]

スポーツ愛好者募集

穴生ドームスポーツ交流会のお知らせ

穴生ドームで、私たちとニュースポーツを楽しみませんか? 現在6団体のクラブが活動しています。各クラブの会員募集要項が穴生ドームにありますので、穴生ドーム職員にお声かけください。

詳しいお問合せは各クラブになります。(連絡先は会員募集要項に記載)

随筆・エッセイ・その他

伯父を思う

歴史に学ぶ 早川 利幸

伯父が今年、百歳で亡くなった。二十代を軍隊で過ごした人である。最後の戦地はラバウルだったという。いつからどのような戦闘を経験したのかなど、全く話をしてくれなかった。しかし、ラバウルの事は忘れていなかったようで、私が撮った南十字星の写真を見せたところ、それがなんであるか、すぐに分かるには驚いた。忘れようもない島の生活だったのだろう。生前「長生きは寂しい、戦友が次々に死んでいく」と言っていた。今頃は天国で懐かしい人と楽しく話っているのかな。

異国の香り漂う対馬

郷土のなりたち 川村 元治

対馬は「舌岐、対馬」と一般に言われている。小さい頃は一緒のころにあると思っていた。先日、その対馬に行く機会を得た。最近のテレビで対馬は韓国のお客さんが多いと放送されており、私が行った時も韓国からのお客さんがたくさんいた。対馬と韓国の距離は四十キロ強と言われている。対馬の商店にはハンゲル文字の看板がたくさんあり、韓国の街の感じがした。対馬を訪れる際には韓国語を勉強して行けば、韓国の人々との交流ができると思った。

「認知症」防止について

アジアを学ぶ 森 昭

短大時代のOB会の席上で、F君が次のような話をした。

- 一つ、一日一回以上神仏に手を合わせる
 - 一つ、一日十人以上の人に会う
 - 一つ、一日百字以上の字を丁寧に書く
 - 一つ、一日千字以上の活字を読む
 - 一つ、一日一万歩以上を歩く
- 軽い認知症の奥さんのケアをしている彼の話だけに、胸に響くものがあった。
- 私は、始めから四番までは実行できていたが、歩くのはせいぜい三千歩から四千歩だ。これからはせめて五千歩目指して歩く。生涯現役を目指す！

修学旅行大宴会

国際情報 大内 美智子

一便の出発日は生憎の雨天となり、期待のオーシャンビューは雨にけられて残念であった。しかし、合同宴会だけは不機嫌な天気とは無縁に盛り上がった。どのコースもチームワークよろしく、ハイテンションで忘れの舞台が続く。

ふと思う。この楽しみに拠っている人達も決してこれ迄の人生が順風満帆の日ばかりではなかったであろう。すべてを乗り越えてこそ今日、今夜があると思つと、騒いでいる人達が愛おしくなった。皆、いい顔をしていた。

穴生学舎誌上 文芸祭

自信作 集まれ!

写真



「天空との交信」
英会話 小林 孝子



「野菜」 絵画入門 金子 リエ子



「シャボン玉」
絵画入門 梶島 和人



「宗像大島」
絵画入門 藤崎 信行

絵画

生活情報 小柳 康子

俳句

静寂の 中に聞こえし 竹皮をぬぐ

歴史に学ぶ 上山 佳子

風ののり 夜のしじまの 金木屋

心と身体 健康 小山 寿子

病葉を ひとひら落とし 秋時雨

郷土のなりたち 生田 年治

短歌

にぎやかに 虫の音びびく 緑の庭

実用書道 村尾裕三子

チクタクと 形見の時計 刻きさむ

昔も今も 変わらぬ音で

アジアを学ぶ 入江 初恵

古希祝い はしやいだ友が 急に逝き

健康管理 光井 敏博

庭にひっそり 彼岸花咲く

幾年せ学びし 穴生学舎

生活情報 小柳 康子

次週待ちつつ 秋の虫の音

試してみよう生涯発達

健康づくりサポーター 足田 紘紀

最近、「生涯発達」という言葉に出会いました。年と共に身体が衰えるのは当たり前のこと。しかし、脳の中には、まだまだ伸び代があり、何かやってみて自分や、成りたい自分がある。

学舎で提供されている実技や机上の学習を、この生涯発達に活用しない手はない。

生涯発達ができるものが、学舎の場で何かないか。走るスピードは落ちるし、ボール投げの飛距離や話し方もレベルダウンするばかり。何か々々発達できるものはないか。ありました。

学舎にはピアノがあります。それを利用して左手を訓練し、一曲で良いから弾いてみたい。一年がかりで。

耳蟬

生活情報 井口 健一

夏すきで

秋は紅葉の花もよう
虫の音静かに冬支度
なのに何ゆえ我れの耳蟬
季節はすれの狂い鳴き
静かになると鳴き始め
ところ構わず鳴きどうし
その音止むのは我れの命の尽きる日か
長くない余命静かに過させよ
飛んで行け
共に尽きずにすむものを...

川柳

運動会 孫と走って 救急車
心と身体 健康 原田美智子

エンブレム 白紙撤回 お前もか
歴史に学ぶ 川元 眞實

若づくり その日に席を 譲られて
実用書道 宮原 伸一

増えすぎる 暗証番号 減る記憶
絵画入門 橋本 領子

小さきも 核さえ持てば 主要因
健康管理 紀井 博之

気が楽と 意地をはつてる ひとりもの
健康スポーツ 天野 智之

正月は 年金小使い 羽生えて
写真入門 荊尾 治邦

今度こそ 買ってしまった 腹筋マシ
アジアを学ぶ 中溝 玄

誕生日 祝酒呑んで 一一九番
心と身体 健康 梅田 三男

川内伊方 玄海と九州人に逃げ場なし
実用書道 宮崎 司朗

片想い 内緒にそつと しまう胸
絵画入門 鈴木 範子

剣の舞 舞いあがった 初舞台
健康管理 吉村真三郎

塵出し日 丸印したら 誕生日
心と身体 健康 岡田 清子